

住まい情報センターオリジナル「住まい学習プログラム」

『住まい』と『まちづくり』

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

1

学校教育における 住教育の3つの課題

- | | |
|-------------------------|---|
| ① 学習機会の不足 | 家庭科教員の 多くが 被服学・食物学を学び「住居学」を学ぶ機会が少ない |
| ② 時間的制約 | 授業の中で子どもたちが体験的に学べる時間がとれない
教材等を準備する時間もない |
| ③ 教科書が体系的になっていない | 教科書の内容は「間取り図の書き方」「風通し・採光」「まち・住環境」など多岐にわたるが、生活の一部を切り取る内容で、断片的に構成されている。
限られた授業時間の中で、体系的に教えるのは困難。
授業内容は住宅内部にとどまることが多く、住環境まで学びが広がりにくい |

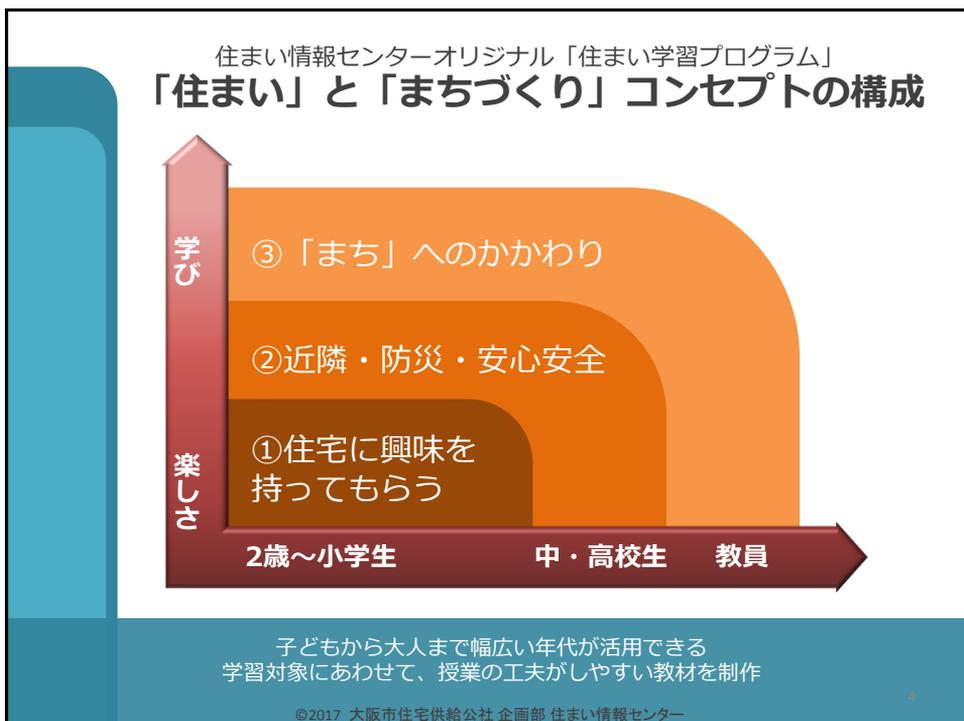
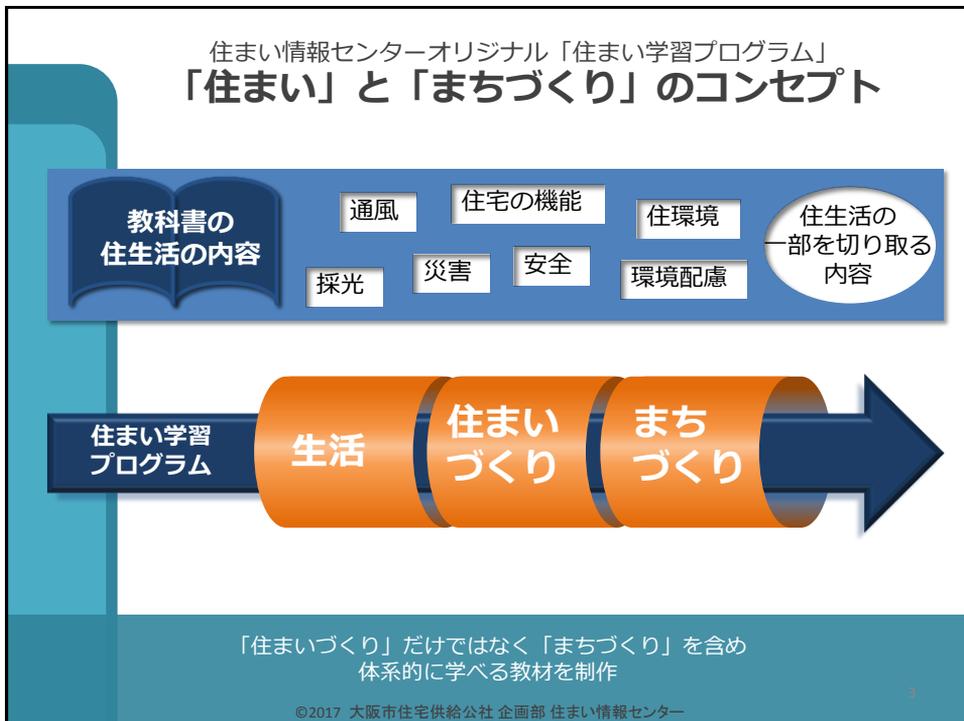
参考文献:室雅子(2018)「家庭科教員養成における教科に関する科目の問題」教科開発学論集 第6号 PP.127~140

● 本教材の着眼点

教員が生徒に住生活という一連の内容を横串に刺すように伝えることができる教材、生徒が当事者意識を持って取り組めるよう、課題と改善策を自ら考え発見する教材を開発。住まい情報センターで受ける相談の中で、トラブル(社会的な課題)の多い内容を盛り込み、「住まいづくり」から「まちづくり」への一連の流れの中「住まい」を単独で捉えるのではなく「近隣」との関係、「地域」との問題にも目を向け、「まち」に住むことを仮定したストーリーで学習できる

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

2



「住まい」と「まちづくり」教材の工夫1

(スライドの活用)

- スライドを活用し、住宅模型の制作、グループディスカッションをしながら授業をすすめる

<p>①住まいについて考える</p>	<p>②新しい「まち」に引越す</p>	<p>③住みたい家を考える</p>	<p>④住宅模型の制作</p>
<p>グループディスカッション</p>		<p>全体ディスカッション</p>	
<p>①まちづくりに参加する</p>	<p>②「まち」のテーマを考える</p>	<p>③「まち」のいいところを探そう!</p>	<p>④「まち」の改善点を考える</p>

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

「住まい」と「まちづくり」教材の工夫2

(部品キットの活用)

住まいづくりを楽しむ工夫

- ① 住宅模型の大きさ：2種類に限定。外壁、窓等取り扱いやすい寸法にした
- ② 屋根の形：日本家屋の代表的な5種類に限定。多様なまち並み、景観をつくることのできる
- ③ 外構の工夫：低木、高木の植栽キットを用意

教科書の内容に加え社会的な課題を盛り込む

- ① 敷地図が3分割でき「まち」ごとにディスカッションできる
- ② 住まい情報センターで受ける相談でトラブル（社会的な課題）が多い内容をそれぞれの「まち」に盛り込む

<p>模型図面</p>	<p>部品キット</p>	<p>敷地図</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家 ● 2階層数 ● 賃貸マンションの相隣トラブル ● 私道
-------------	--------------	--

- ・ 住まいづくりを楽しむことで、住まいへの愛着・興味を持ってもらう
- ・ 社会的な課題を、身近な問題として捉え、考えてもらう
- ・ 敷地を分割することで、グループワークがしやすくなる

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

「住まい」と「まちづくり」教材の工夫3

(社会的な課題を盛り込み、分割できる敷地図の活用)

- 1、**マンション・店舗ゾーン** 単身者
中高層の単身者用マンション・1階は店舗：
テナントの検討・マンションと地域の関係
- 2、**住宅ゾーン** ファミリー
広い敷地、専用道路のある落ち着いた街区：
空地の活用・街の景観
- 3、**下町ゾーン** 高齢者・ファミリー
昔ながらの長屋：**行止まりの私道・空き家問題**
- 4、**建売住宅ゾーン** 新婚・ファミリー
3階建ての建売住宅：**ごみ屋敷問題**

敷地を3つに分割し、特徴的な4つのゾーンに分け、
さまざまな世代の「生活」を想定

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター 7

「住まい」と「まちづくり」教材の工夫4

(完成した「まち」と敷地図の活用)

「まち」の課題(問題点)と改善策を
自ら考え、発見する学びのサイクルを作る!

例 「まち」のテーマ

完成した「まち」を見ながら危険な箇所に●シールを貼る

「まち」のテーマを決めよう

例

- 災害に強い「まち」
- 省エネの「まち」
- 高齢者に優しい「まち」
- 子育てしやすい「まち」

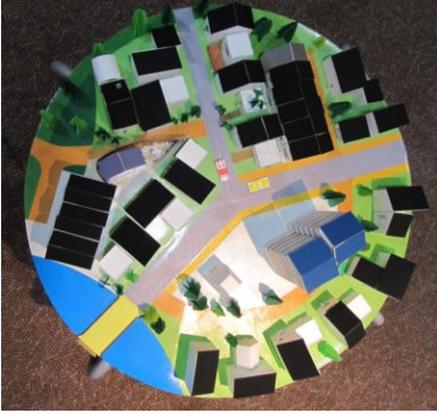
テーマに沿って「まち」を完成させる
「まち」をつくる⇒検証する⇒問題点を考える⇒改善策を考える⇒まちを改善

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター 8

教材の活用方法1

景観の比較

まちづくり活用事例



屋根の色：瓦（黒）の色に統一



屋根の色：暖色系の色に統一

「まち」全体の屋根の色を変えることで、まち並みとして風景の持つ意味を検証する

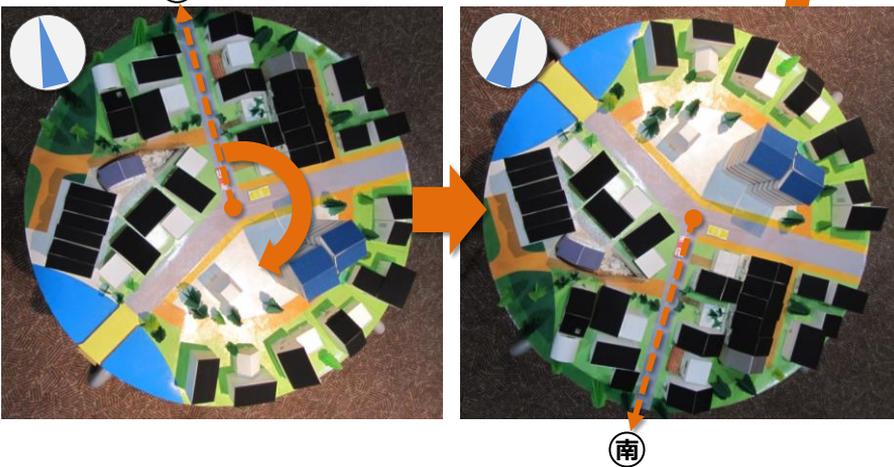
©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

9

教材の活用方法2

方位と住宅の配置の関係

まちづくり活用事例



同じ敷地で方位だけを変えた場合、住宅の配置がどうかかわるのか、日照、通風、プライバシー等を検証する

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

10

教材の活用方法3

このまちのテーマは？

災害に強い「まち」をつくろう

テーマに沿って「まち」をつくる



事例

防災公園

河川・崖

空き地を活用して、防災公園をつくる
土砂災害の防止のため、崖に植栽を植える

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

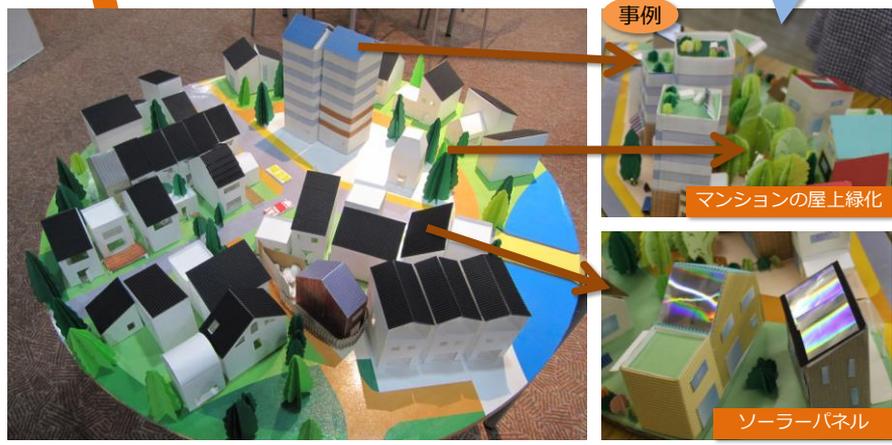
11

教材の活用方法4

このまちのテーマは？

省エネの「まち」をつくろう

テーマに沿って「まち」をつくる



事例

マンションの屋上緑化

ソーラーパネル

地球温暖化を防ぐため、「まち」の緑化を考える。屋上緑化、街路樹を植える
自然エネルギーを有効活用しソーラーパネルを設置

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

12

大阪市立 住まい情報センター

4階住情報プラザの様子



～住まい情報センターの住教育の取り組み～

住まい情報センターでは見て、さわって、作って、遊べる住まいを体感できるような「住教育」に取り組んでいます



住教育の取り組みとして、2歳児から小学生を対象に遊びながら住空間の仕組みを学べる体験型コーナー「すまじょーくんハウス」を設置しています。ここでは、**7つの体験**を通していろいろな発見ができます。

2015年8月からは、画用紙で制作した1/100サイズの家の模型に、子どもたちが自由にデザインする体験を始め、その作品は「空のまち」に展示し、「すまじょーくんハウス」と共に住まい情報センター内に設置しています。



すまじょーくんハウス

「すまじょーくんハウス」は、2013年8月、住まい情報センターのキャラクターすまじょーくんから誕生しました。

住まい情報センターのキッズラボ
すまじょーくん

すまじょーくんハウスの 7つの体験

みて、さわって、つくって選べるすまじょーくんハウス
遊びにきてね

1 住空間の体験
トプライトから差し込む光、ちいさいながらも空間を楽しもう！

4 生活の体験
キッチンのレイアウトを覚えてみよう！

2 屋根の仕組みを知る体験
好きな色の瓦を差し込むこともできるよ！

5 色の体験
同じ家なのに屋根の色をかえるだけでどんな感じに変わるかな？

3 自由に組み立てる工式体験
六角形つなぎの面白い好きな形に組み合わせてみよう！

6 日本行事の体験
日本の四季を感じる

7 デザインの体験
さあ！ぼくの家わたしの家をデザインしよう！

すまじょーくんハウスでは、住空間を楽しむだけではなく、キッチンの組み合わせを考えることで、生活の体験や工夫を学ぶことができます。

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

7.デザインの体験

1/100サイズの家の模型に自由に色紙を貼り、色をぬって仕上げます

「7つの体験」の中の「デザイン体験」では2歳から小学生の子どもたちが家の模型をつかって自由にデザインをします。

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

7.デザインの体験



子どもたちが作った作品は、おおさか・あんじゅ・ネットで公開しています
<http://www.osaka-angenet.jp/>

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

“空のまち”

まちづくりに
参加



① 住宅

② 店舗

③ 高層マンション

④ 施設



子どもたちが作った作品は、空中に浮いた「空のまち」に展示します。
 住宅、店舗、高層マンション、施設などのテーマを与えることで、
 子どもたちの自発性、創造性を高めます。

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

18

2歳～小学生向け

➔

中学・高校生向け




『空のまち』からの発展

➔

住まい情報センターオリジナル「住まい学習プログラム」
『住まい』と『まちづくり』

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター

「住まい学習プログラム」 についての問い合わせ

大阪市立住まい情報センター 企画担当
〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20
住まい情報センター4階住情報プラザ
電話: 06-6242-1160、FAX: 06-6354-8601

•教材の紹介: <http://www.osaka-angenet.jp/news/000574.html>

*「住まい学習プログラム」の教材貸出のほか、学校への出前講座(講師派遣及び教職員を対象とした本教材の使い方講座など)もおこなっています。まずはお相談ください。

©2017 大阪市住宅供給公社 企画部 住まい情報センター